

日本国際情報学会 国際開発研究部会 2024年度 第2回 研究報告会 報告書

国際開発研究部会 2024年度第2回研究報告会（講演会）を下記のとおり開催しました。

記

1 部会目的

国際開発課題を経済開発と社会開発の両面から捉えて、ミレニアム開発目標(MDGs)や持続可能な開発目標(SDGs)を含む国際開発枠組み及び人間の安全保障・人権・社会開発のような開発理念をアプローチし、そして貿易と開発、技術移転・技術開発の促進、産業集積と地域経済発展、貿易障壁の削減の諸課題を経済学的な視点から理論・実証・政策の側面から研究する。

2 開催日時

2024年（令和6年）9月28日（土） 15時55分～17時15分

3 開催会場

日本大学経済学部7号館(4階)7043教室（対面）とZoom（オンライン）ー同時開催ー

4 研究講演会〔報告40分、質疑応答30分〕（敬称略）

(1) 開会あいさつ

陸 亦群 国際開発研究部会長・日本大学経済学部教授



本部会は、今年で発足10年を迎えた。この間、様々な研究報告がなされ、他の研究者との共同報告も行ってきた。こうした伝統を踏まえ、本日は講演会として企画させていただいた。今後も皆さんと共に研鑽を重ね、この部会を活用して多くの皆さんの研究報告ができるよう取り組みたい。

本日の報告は、内容は社会的な関心度が高いテーマに関して、エビデンスを示した分析を基に報告されると聞いています。価値ある講演をお聞きしたいと思います。

(2) 研究報告会

司会者：幹事 齋藤 高志

○研究報告（16:00～17:10）

○研究報告者：Abhay JOSHI (Daito Bunka University)

Sho HANEDA (Nihon University)

○講演内容：The Determinants of the COVID-19 Infection in India -
Evidence from Individual Data

○報告言語：日本語



COVID-19 は、世界中に感染者を出したが、インドでは、マハラシュトラ州に集中する傾向がみられた。そこで、2021年にジャルナで現地調査を行い、378世帯を訪問し、148件の対面ヒヤリング調査を行った。計量経済分析を通じて、内部および外部のネットワークが新型コロナウイルス感染症に与える影響を分析した。

【結論】

- 外部ネットワーク、特に他の地域からの情報がパンデミック中の感染率の上昇につながった可能性がある。
- ジャルナでは、親族や友人などの親しい関係者や指導者間のコミュニケーションが円滑になったことで、新型コロナウイルス感染症関連のリスクが軽減された可能性がある。
- インプリケーションとして、政府や地域社会の各レベルのリーダーからのリアルタイム情報、そして親戚や親しい友人との円滑なコミュニケーションがパンデミック下で重要な役割を果たす。

(3) 閉会挨拶： 前野 高章 日本大学大学通信教育部教授



現地調査での様々な困難を乗り越え、大変意義のある報告をしてくださいました。こうした調査は、なかなかできないので、聴講者の皆様にも大いに研究の参考になったと思います。
またの機会に別の視点でも報告をしていただければありがたいと思っています。

5 参加者

14名 (会場10名、ZOOM4名)

